

種の解説

タモロコ	太平洋側では天龍川以西の西日本に分布する国内移植種であるが、1939年から1941年にかけて、当時の東京府水産試験場水元支場が場内や都内各地に放流を行った記録がある。
モツゴ	関東地方では、クチボソとも呼ばれる小型の魚である。
カワムツ	本種は1970年代から琵琶湖産湖アユの放流種苗に混入して多摩川・荒川水域に見られるようになった国内移植種。
オイカワ	荒川水域に広く分布して親しまれているが、本種の天然分布の北限は多摩川水系であるため国内移植種である。
ギンブナ	種類としては関東地方にも棲息する在来亜種であるが、西日本産の個体であることが強く疑われる。東京都水産試験場の温水魚部門が廃止されてから都内産の種苗の放流がなくなり、放流魚を関西からの購入魚に依存している実態にある。
コイ	日本在来のコイ(野鯉)は琵琶湖など一部地域に残るのみ。今回捕獲されたコイは養殖魚(いわゆる大和鯉)である。コイは肉食性が強い雑食性で、小魚やエビ類などを積極的に捕食する。また採餌の際に餌を底泥とともに口に含んで吐き出すことで水中の懸濁物質を増やし透視度を低下させる。最近では、井の頭池や宅部池などでも積極的なコイの駆除が実施されている。
ヤリタナゴ	本種はかつては天然分布していたが、荒川水域では全域でほぼ天然絶滅(注)と考えられている。人工のこの池では明らかに人為的放流である。かつて棲息していた水系への放流は特に悪質だ。
タイリクバラタナゴ	本亜種は中国大陸からハクレンとソウギョを輸入した際に混入して侵入した外来種。ヌマガイやカラスガイなどの二枚貝類に産卵するが、この池で二枚貝は発見されなかった。明らかな放流である。
ドジョウ	平野部の水田や湿地などに全国的に生息している。
ナマズ	中部以東の地域は国内移植種だとする説もあるが、遺跡の出土の分析によるだけで定説には至っていない。北川では淵で時々見られ
メダカ	分類上は東京産のメダカはミナミメダカとされているが、他水域産の雑種集団である可能性が高いことから、和名は単にメダカとした。
オオクチバス	アメリカから釣り目的で導入され、密放流により未だに被害を拡げている特定外来種。今回は成熟した雌雄各1個体を採集したが、産卵前に捕獲できてよかった。
クロダハゼ	ハゼ科のヨシノボリ的一种で、かつてはトウヨシノボリと呼ばれていた種で、関東地方の中下流域には広く分布している。
(注)『天然絶滅』とは、水族館や研究機関では系統保存がされていても、野外に本来の棲息地が失われている状態を言う。荒川水系のメダカもこれに該当する。	